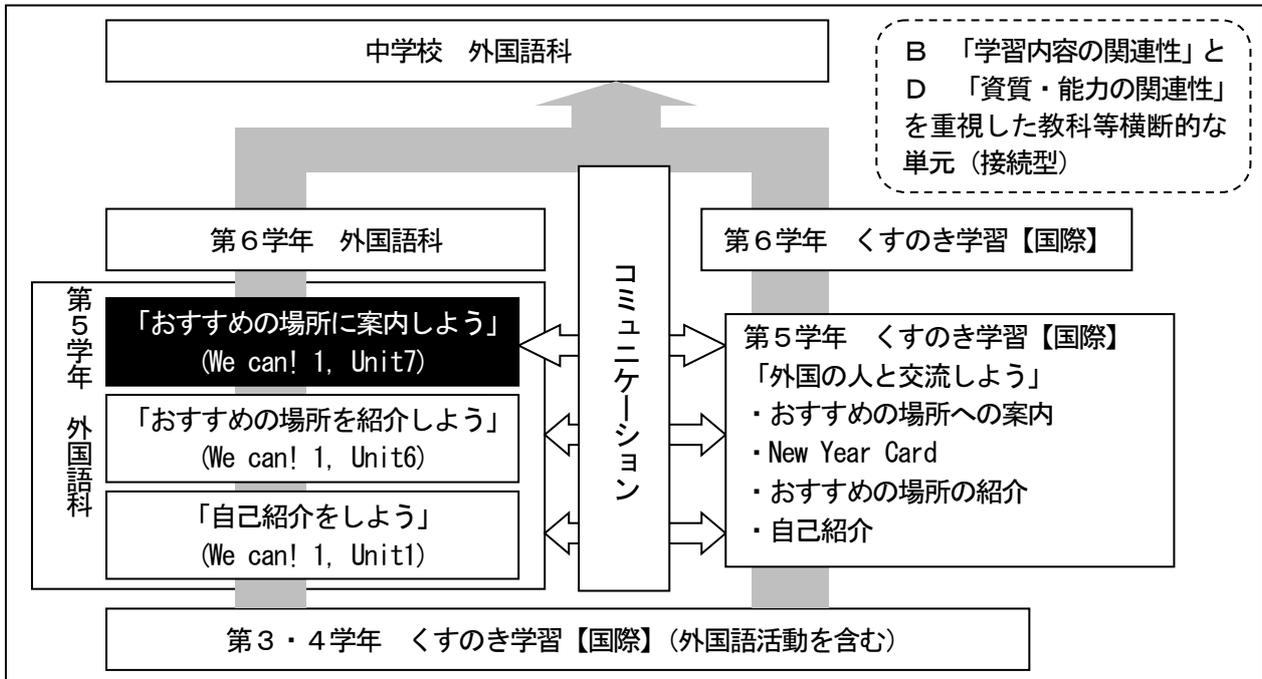


## 第5学年花組 外国語科（+くすのき学習【国際】）

「おすすめの場所に案内しよう -Dogo ver. -」

指導者 和田 清寛 川口 ローラ

### 1 単元全体構想図



### 2 単元構想について

本単元は、B「学習内容の関連性」とD「資質・能力の関連性」を重視した教科等横断的な単元である。

本校の外国語科では、コミュニケーションを図るための手段として外国語（英語）を学び、コミュニケーション能力の基礎を養い、学んだ外国語（英語）や身に付けたコミュニケーションの素地や能力を発揮される場として、くすのき学習【国際】を位置付けることで、子どもは主体的に外国語を学んだり、コミュニケーションを図ったりすることができると考えている。

二学期の外国語科「おすすめの場所を紹介しよう」では、くすのき学習【国際】で自分の興味のある国についての調べ学習を行った上で、外国語科で自分の思いを持って紹介をした。ここでは、外国語科で愛媛のお勧めの場所を紹介する表現を学び、くすのき学習【国際】で、インターネットを用いて、オーストラリアの子どもに紹介する国際交流を行ったりするなど、外国語科とくすのき学習【国際】との関連性を重視した単元を構想した。子どもたちは外国語科で慣れ親しんだ表現を用いて交流活動を行うことで、自信を持って交流活動に取り組み、その達成感から、「伝わってよかった。」「もっと自分たちのことを知ってもらいたい。」と、オーストラリアの子どもとコミュニケーションを図りたいという意欲を高めるとともに、直接外国の人と話してみたいと考える子どももいた。本校の近くには、外国からの観光客の多い道後温泉がある。実際にそこに出掛け、外国の人にお勧めの場所を紹介したり、案内したりすることは、子どもの外国の人とコミュニケーションを図りたい、英語で話してみたいという、欲求を満たすことができると考え、本単元を以下のように構想した。

本単元では、道案内に使う表現を知るだけでなく、位置関係を示す前置詞についても理解を深め、限られた場面ではあるが、道案内ができるようになることをねらいとしている。教室の中での道案内ではなく、くすのき学習【国際】の時間を用いて、実際に地域に出掛け、道案内を行うことで、外国語科で学んだ英語を用いてコミュニケーションを行い、自分たちの英語が伝わったと実感し、これからはいろいろな人とコミュニケーションを図っていききたいという気持ちを高めることができると考える。この単元では、道案内やお勧めの場所の紹介など、やり取りを中心に単元を展開するため、「話すこと」「聞くこと」の内容に重点を置き、「読むこと」「書くこと」の内容については、単元を通して、帯活動として取り上げる。

まず、「出会い」の場面では、くすのき学習【国際】の時間を用いて、直接外国の人と話してみたいと願いを抱いた前単元の学習を思い出させ、本単元への期待感を高める。その上で、実際に道後に出掛け、外国の人や地域

の人と話すことで、外国の人がどのようなことを知りたいかを調べる。そうすることで、外国の人の思いに答えるために、何を紹介し、どのように道案内をすることが必要であるか、学習の見通しを持たせる。その上で、外国語科において、道案内を行うための位置関係を示す前置詞を、図や具体物を用い、具体的な場面を示すことで、理解させる。

「追究」の場面では、道後案内に挑戦する。地図だけでなく、体を動かしながら、様々な場面を設定し、繰り返し道案内を行うことで、位置関係を示す前置詞や道案内に使う表現の定着を図る。また、くすのき学習【国際】の時間を用いて、再度道後を訪れることで、お勧めの場所について調べたり、ICT 機器を用いて、調べた場所についてまとめ、効果的に紹介したりする手立てとする。そして、道後紹介の練習をする。しかし、道案内だけのやり取りであれば、決まり切ったやり取りで終わりがちである。実際に道後で外国の人と話すことで、相手からそれについての質問が返ってきたり、相手のことを知るために、こちらから質問したりするなど、即興性が必要となってくる。そのために、外国語科の授業において、やり取りがある程度継続するように、教師が実際にやってみせたり、全体で場で課題を共有し、解決に向けて話し合わせたりするなど、主体的・対話的な活動となるよう促す。その後、研究大会の参観の先生にも観光客として参加してもらうことで、「お勧めの場所の紹介が伝わってよかった。」「上手に道案内をすることができた。」と達成感を味わわせ、外国の人との交流への意欲を高め、くすのき学習【国際】での道後案内に臨ませる。

「振り返り」の場面では、くすのき学習【国際】での道後案内を振り返り、外国語（英語）を用いて、うまくかかわれたところや上手にできなかったところについて話し合う。その上で、うまくかかわれた会話について、全体で練習をする。そのことにより、これからも外国の人とコミュニケーションを図っていききたいという気持ちが高まると考えた。

### 3 単元のねらい

- 物の位置を尋ねたり答えたりする表現や道案内で場所に関する表現を、聞いたり言ったりすることができる。
- 物の位置や、道案内で場所を尋ねたり答えたり、道後のお勧めの場所を理由も含めて紹介したりする。
- 他者に配慮しながら、道後のお勧めの場所について紹介したり、目的地への行き方を尋ねたり答えたりしようとする。

### 4 単元の展開（全8時間）

場面	子どもの課題意識と主な学習活動	評価の規準	時間
出合い	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くすのき学習【国際】</div> 外国の人が知りたいことを調べよう。 道後のお勧めの場所を言ってみよう。 ○ ある物の場所や物の位置関係を表す表現を知り、その位置関係を聞いたり言ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外国の人とどのようなコミュニケーションが図れるか考えるなど、直接のかかわりを楽しみにしている。</li> <li>● ある物の場所や物の位置関係を表す表現が分かり、聞いたり言ったりしている。</li> </ul>	2
追究	道後案内に挑戦してみよう。 ○ 建物の言い方や道案内の仕方を知り、目的地への行き方を尋ねたり答えたりしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くすのき学習【国際】</div> 道後のお勧めの場所を調べ、まとめよう。 ○ 相手の立場に立って、お勧めの場所やその理由を考え、道後紹介の練習をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くすのき学習【国際】</div> 道後案内をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道案内の仕方が分かり、目的地への行き方を尋ねたり答えたりしている。</li> <li>● 相手に伝わりやすいように、お勧めの場所の紹介をしたり、目的地への行き方を答えたりしている。</li> </ul>	5 本時 その5
振り返り	道後案内を振り返ろう。 ○ 外国の人とうまくかかわれた英語表現を振り返り、全体で練習し、次の交流に生かす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 道後案内を振り返り、これからもコミュニケーションを図っていききたいという気持ちが高まっている。</li> </ul>	1

### 5 単元における指導の工夫

場面	三つの場面ごとの子どもと「つなぐ」指導の工夫（学習材・他者・自分自身）
出合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語科の授業やオーストラリアの子どもとの交流を振り返らせ、既習の英語表現を用いて外国の人とどのようなかかわりができるか考えさせることで、外国の人とのコミュニケーションに期待感を持たせる。（学・他・自）</li> <li>・ 図や具体物を用い、具体的な場面を示すことで、位置関係を表す前置詞の理解を図る。（学）</li> </ul>

追究	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に体を動かすことで、道案内に使う英語表現の慣れ親しみを図る。(学)</li> <li>英語で話すだけでなく、相手の方に地図を向け、指で指し示しながら道案内をしたり、ICT 機器を用いて、お勧めの場所を紹介したりするなど、相手の立場に立って道後案内をしようとする。(他・自)</li> <li>道案内だけで終わらず、やり取りが続くように、練習の後に全体で課題を共有し、その解決に向けて話し合わせたり、その後、参観者の先生に案内する場を設けたりすることで、自信を持たせ、道後案内への意欲を高める。(他・自)</li> </ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後案内を振り返り、外国の人と上手くかかわれたところや上手にかかわれなかったところについて話し合わせ、全体で練習することで、次の交流に生かすなど、これからも外国の人とのコミュニケーションを楽しみたいという気持ちを持てる。(自)</li> </ul>

## 6 評価の具体的な方法

### (1) 「出会い」の場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視点	○ 位置を表す基本的な語彙を理解し、日本語との音声や構造の違いを意識しながら聞いたり、発話したりすることができる。	○ 状況に合わせて語彙を適切に使い、位置に関する情報を正確に伝えたり受け取ったりすることができる。	○ 言語に関心を高め、外国語を用いてコミュニケーションを図ることを楽しもうとしている。
方法	様態 発言	様態 発言	発言 自己評価
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を操作しながら位置関係を表す前置詞を理解し、物の場所について聞いたり言ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物のある場所によって、どの位置関係を表す前置詞を用いればいいか考え、どこにあるか聞いたり言ったりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を用いて道後を案内するために、外国の人とかわることを楽しみにしている。</li> </ul>

### (2) 「追究」の場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>道案内に必要な定型表現を知り、文構造や音声の特徴を意識しながら聞いたり発話したりすることができる。</li> <li>既習事項と関連付けながらお勧めの場所についてのやり取りに関する表現を見直したり使ったりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道案内に関する定型表現や既習事項を活用し、他者意識を持って質問したり答えたりしながら、お勧めの場所についての思いや情報をやり取りすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より相手に配慮したやり取りとなるよう、実践を通して表現や内容を繰り返し吟味し、試行錯誤しながら、英語を用いたコミュニケーションの力を高めようとしている。</li> </ul>
方法	様態 発言	様態 発言	様態 自己評価
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に体を動かしながら道案内の表現について体感するなど、道案内について聞いたり言ったりしている。</li> <li>お勧めの場所について課題を共有し、解決することで、必要な英語表現を選択したり紹介したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道案内やお勧めの場所を紹介するために、必要な英語表現を用いたり、相手に伝わるように自分の思いを表現したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後案内について課題を共有し、全体で解決することで、相手に伝わるようにするためには、どの英語表現を用いればよいか考えるなど、相手の立場に立ってコミュニケーションを図ろうとしている。</li> </ul>

### (3) 「振り返り」の場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視点	○ 様々なコミュニケーションの場において使える表現を知り、実際の場面で活用できる。	○ 多様な他者、状況に合わせて、やり取りの方法や内容を整理しながら、思いや情報のやり取りをすることができる。	○ 失敗を恐れず、身に付けた力を活用しながら、英語を用いたコミュニケーションを楽しもうとしている。
方法	様態 発言	様態 自己評価	様態 自己評価
目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後案内を振り返り、目的・場面・状況に応じた英語表現を知り、実際に使うことで、その技能を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後案内を振り返り、目的・場面・状況に応じて、使用する英語表現やコミュニケーションの方法を考えながらやり取りを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道後案内を振り返り、これからも外国の人とかわりたいという気持ちが高まっている。</li> </ul>

### (4) 「読むこと」「書くこと」において(単元を通してた帯活動として)

○ 文字と音声に関連付けながら、読んだり書いたりする。
-----------------------------

7 本時の授業（7／8）

- (1) 日時 令和2年1月31日（金）11:30～12:15
- (2) 場所 5年花組教室
- (3) ねらい 他者に配慮しながら、お勧めの場所を紹介したり案内したりしようとする。
- (4) 準備物 電子黒板、絵カード、地図、ワークシート、タブレットPC、振り返りカード
- (5) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	指導（○）と評価（●）
1 Greeting	<p style="text-align: center;">全体であいさつをしよう。</p> <p>・ I' m good.                      ・ I' m happy.                      ・ I' m hungry.                    ・ I' m sleepy.</p>	<p>○ コミュニケーションを意識させることで、楽しく英語でコミュニケーションを図れる雰囲気をつくる。</p>
2 Review	<p style="text-align: center;">道案内の練習をしよう。</p> <p>・ よく聞いて、どう行けばいいか考えよう。                      ・ どうすれば、相手を目的地に案内できるかな。</p>	<p>○ 帯活動として、ALT によるクイズを行うことを通して、定型表現への理解を深められるようにする。</p>
3 Activity 1	<p style="text-align: center;">相手に分かりやすく、おすすめの場所に案内する練習をしよう。</p> <p>・ 地図を相手の方に向けて道案内をしよう。                      ・ 道案内だけでなく、おすすめの場所を紹介するのは難しいね。                      ・ どう答えるといいか分からないよ。                      ・ 相手が何を聞いてくるか分からないからその答え方を考えないといけないね。</p>	<p>○ コミュニケーションのポイントについて事前に伝えることで、話合いの視点を明確にする。</p> <p>○ ALT は観光客の立場で子どもにかかわることで、子どもが英語表現に親しめるようにする。</p> <p>○ 前半の活動を振り返らせ、よかった点や難しかった点を出し合い、その解決方法を考えさせることで、後半の活動につなげる。</p>
4 Activity 2	<p style="text-align: center;">教えてもらったことをもとに、もう一度おすすめの場所に案内しよう。</p> <p>・ 今までの表現を思い出しながら紹介しよう。                      ・ グループで協力して紹介しよう。                      ・ 難しい表現はジェスチャーを使って表現してみよう。                      ・ 相手に伝わったようだ。うれしいな。</p>	<p>○ 共有したり解決したりしたことをもとに、もう一度紹介や案内を行うことで、相手に上手に伝わる達成感を味わわせる。</p> <p>○ 参観者の先生にも観光客の立場で子どもにかかわってもらふことで、子どもをいろいろな人にかかわらせ、自信を持たせる。</p> <p>● 相手のことを考えながら、お勧めの場所の紹介をしたり、案内したりしようとしていたか。</p> <p style="text-align: right;">[様態・振り返りカード]</p>
5 Conclusion	<p style="text-align: center;">今日の学習を振り返ろう。</p> <p>・ 分かりやすく案内できたよ。                      ・ 案内の練習をしてみて、自信が付いたよ。                      ・ 実際におすすめの場所に案内するのが楽しみだ。</p>	<p>○ 本時のねらいをもとに振り返らせ、子どもを称揚することで、実際の活動への意欲を高める。</p> <p>● 外国の人をお勧めの場所へ案内しようという意欲が高まったか。</p> <p style="text-align: right;">[発言・振り返りカード]</p>